三浦市青少年派遣団活動報告書

2019夏、発見の旅へ出かけよう

目的

❶オーストラリア及びウォーナンブール市の教育・文化・生活習慣等の理解
❷青少年同士の交流　❸国際的視野を持つ青少年の育成　❹次代の市民同士、地域同士の交流の促進

目次

派遣生紹介～国際姉妹都市ウォーナンブール市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
引率者からの報告・・・２
活動日誌・・・３～１４
研究課題・・１５～５８
市民交流を終えて・・５９～６６

派遣先

オーストラリア　ヴィクトリア州　ウォーナンブール市

派遣期間

2019年8月　1日（木）～8月14日（水）

活動概要

研修

・・・・・・・・・・・・・・・・

6/　5（水）派遣概要
6/12（水）課題説明
6/26（水）英語指導
7/　3（水）英語指導
7/17（水）渡航準備
8/22（木）課題提出

交流

・・・・・・・・・・・・・・・・

7/12（金）
三浦市にて
ウォーナンブール市青少年派遣団と市民交流
8/　1（木）～14（水）
ウォーナンブール市にて
市民交流

報告

・・・・・・・・・・・・・・・・

7/30（火）
市長、実行委員会等へ出発報告
8/22（木）
市長、実行委員会等へ活動報告
8/29（木）
三浦ロータリークラブへ報告
11/17（日）
三浦市民まつり出展

三浦市青少年派遣団

派遣団は、生徒８名、引率２名の１０名で構成されています。高校生は４名、１年生の秋山琴音、長井美空、水野真緒、２年生の清水萩。中学生は２年生４名、宇田舞彩、菅野愛奈、髙野惠介、吉田初声里。引率は教育部青少年教育課長の平松恭輔、南下浦小学校教諭の髙橋知子。

派遣生の研究課題のテーマは、市民交流を通じて「学校生活」「市民生活」「異文化生活」の中から、それぞれ自分らしい内容を選択しております。

「学校生活」は秋山（福祉）清水（学校）、「市民生活」は宇田（お菓子）菅野（外国語の授業）水野（生活スタイル）、「異文化生活」は髙野（オーストラリアの日本）長井（食文化）吉田（オーストラリアで流行っているアプリ）を設定し、調査しております。

派遣生紹介

秋山　琴音（高１）

清水　萩（高２）

髙野　恵介（中２）

水野　真緒（高１）

宇田　舞彩（中２）

菅野　愛奈（中２）

長井　美空（高１）

吉田初声里（中２）

国際姉妹都市オーストラリア・ウォーナンブール市

ウォーナンブール市はオーストラリアの南東部に位置する穏やかな気候と自然豊かな大地に恵まれた人口約 35,000 人の美しい都市です。

メルボルンへ約 300km 続く切り立った海岸線と奇岩で知られるグレートオーシャンロードや、野生のクジラを観察できるホエールウォッチングには多くの観光客が訪れます。

また、広大な牧草地帯に続く放牧風景はオーストラリアの大自然をそのまま感じることが出来ます。

市内には、古き時代のハーバービレッジを再現したフラッグスタッフヒルや、野生のコアラやカンガルーなどが生息する自然公園のタワーヒルなど人と自然が調和し共生している街です。

昭和 56 年（1981 年）４月、ウォーナンブール市長をはじめとする一行が、交流を目的として本市を訪れたのが始まりでした。その後、昭和 58 年（1983 年）、ウォーナンブール市議会議員が三浦市を訪れたことをきっかけに、姉妹都市提携を前提とした交流が始まりました。市民訪問団による相互訪問を含む約 10 年間の準備の後、平成４年（1992 年）７月６日姉妹都市の盟約を結ぶに至りました。締結後は、青少年の相互派遣や留学生の受入れ等の教育の交流、市民訪問団による相互交流や行政間交流、有志による芸術交流も行われています。

平成 24 年（2012 年）から平成 27 年（2015 年）にかけて姉妹都市提携 20 周年を記念し様々な交流が行われました。５月に三浦市国際交流協会訪問団が、８月に三浦市長がウォーナンブール市を訪れ、記念行事等に出席しました。

平成 25 年（2013 年）10 月、ウォーナンブール市長を始めとする 11 名の訪問団を三浦市へお招きし、様々な姉妹都市提携 20 周年記念事業を実施しました。

また、平成 27 年（2015 年）４月、ウォーナンブール市民訪問団が三浦市に滞在し、ホームステイや日本文化体験を通して、これまで育んできた両市の絆をさらに深めることができました。

そして、平成 30 年（2018 年）５月、三浦市国際交流協会訪問団が、25 周年を記念しウォーナンブール市を訪れました。

引率者からの報告

三浦市教育部　青少年教育課　平松恭輔

令和元年度の三浦市青少年派遣団の派遣生８名を引率し約２週間、大きな問題もなく充実した活動ができ、また全員無事に帰国することが出来たことに安堵と喜びを感じています。

今年度の訪問では、日本からメルボルンへの直行便を利用し、木曜日の夜便で成田空港を出発し金曜日のお昼にはウォーナンブール市のブラウワーカレッジへ到着することができました。体に負担が少なく、派遣生達は体調を崩さずに移動することが出来ました。

到着し昼食が終わるころに、ホストスチューデントが迎えに来ました。派遣生達がクラスへと導かれて行く姿には緊張と不安がにじみ出ており、国際交流が始まったのだという雰囲気がありました。

初日の授業が終わると派遣生達はそのままホストファミリーのお迎えで、ホームステイが始まりました。翌日からは週末ということで、うまく週末を過ごせるか心配しましたが、月曜日の派遣生達の明るく元気な姿を見ると心配が徒労であり、各自うまくコミュニケーションをとりながら過ごせたようであり、ホットしたことを覚えています。

今回の派遣団は、ブラウワーカレッジを中心にした交流の他に、１つの小学校を訪問しました。そこでは、日本のカルタを使った低学年の日本語の授業を体験しました。クラスが替わるたびに自己紹介をしましたが、各自工夫をし、子ども達の笑いを取りながら自己紹介をしている姿には関心をしました。

派遣生の皆さんには、親元を離れての外国での生活。寂しさを感じたり文化の違いに戸惑いながらも、充実した日々を過ごし、たくさんの思い出を作ることが出来たと思います。これらの経験を今後につなげて活躍していただければと思います。

三浦市立南下浦小学校　教諭　髙橋知子

2019 年度三浦市青少年派遣団の引率をさせて頂き本当に有難うございました。とても貴重な体験をすることができました。

派遣団一同は、オーストラリアに着くとお迎えのバスに乗り、その窓から見える一面の草原に目をきらきらと輝かせて、気持ちの高ぶりを隠し切れませんでした。長時間の移動やフライトのことは忘れてしまったようです。

Brauer college では、高校生や中学生に混ざり全授業を英語で受講し、休み時間もホストファミリーの家の子と、その友だちと交流していました。相手が何を言っているのか、一生懸命にリスニングをして理解しようとする前向きな姿勢や笑顔でコミュニケーションをとる様子からは、子どもたちの頑張りが伝わってきました。

数日経つと、Brauer の生徒に自分から話しかける子がいました。「これは、すごい！」と思いました。自主的に相手や課題に積極的に関わっていくことはこれから求められる「実践的コミュニケーション」だと思いました。

また、異文化に触れて何度も驚くことがありました。「日本や自分の当たり前は、その国や相手によって当たり前ではない」ということも学び、そこを柔軟に対応していかなければならない必要性にも気付けたのではないでしょうか。

今回のオーストラリアの旅で改めて実感したことは、英語を話せることで色々な国の人と会話ができ、自分の世界も広がり豊かになれるということです。英語は、価値のある言語だと思いました。